

【解答】

問1 オ

問2 海外から船舶輸送する際のエネルギー消費からの二酸化炭素排出を少なくすることができる。作物栽培には大量の水が消費されているが、輸入せずに地産地消を行えば、輸出国の水資源枯渇につながる問題を避けることができる。品質に問題のある作物を輸入しないで済むため、食の安全性を確保することができる。

問3 農家の栽培した農産物を農産物直売店で販売したり、農地の近くで料理して提供する農家レストランを経営したり、また、農業体験イベントなどを実施することで販売したい農産物の知名度や評価を上げ、その加工品を道の駅で販売することなどが行われている。このように、第一次産業のみならず第二次産業、第三次産業にも総合して携わることで農家の収益向上と安定経営を目的としている。

問4 広大な農地を得ることができる。また、寒冷的な地域であるがゆえに山地の上部に雪が積もり、稲の成長期に当たる初夏に豊富な雪解け水を得ることができる。東北地方では山間部に盆地が多く存在しており、夏季に高い気温のもとで稲が生育できる。

問5 名称：棚田 理由：平野部の少ない地域では傾斜地を有効利用しなければならないため。
役割：降水の際の水分をある程度貯め、ゆっくり排出することで洪水を防ぐことができる。そのため、土砂崩れ、土壌流出も防ぐことができる。豊かな生態系を維持することができる。

解説

かなり冷え込んでくるようになりましたが、みなさんはいかがお過ごしでしょうか？おでんのおいしい季節になりました。

今回の問題とは関係はありませんが、久しぶりに中国語の学習を始めました。去る9月14日に

は新 HSK 5 級を受験しました。旧来の制度の時には6級に合格していましたが、久しぶりなので級を下げて5級を受験しました(中国では数値が上の方がレベルが高いのです)。およそ6割を取得すれば合格らしく、私はほぼ8割を取得できました。8月の終わりから2週間ほどしか対策できませんでしたが、昔取った杵柄って言うのでしょうかね、無事満足のいく点数をゲットです。これに気持ちを良くして、11月には中国語検定2級を受験します。この級には苦い思い出があります。2000年ごろに受験した時は、筆記は合格なのに、リスニングが2点足りないだけで不合格通知を受け取る羽目に…。今は3級の問題集を解いていますが、正直2級に届くかどうかは微妙な感じです。でも、月日の移ろいは早いもんですね。前までにはなかった単語が目白押しのように出てきます。特にネット系。ダウンロードとかインストールとか携帯メールとか。これらの新出単語を覚えつつ、残りの日々も頑張って2級にアタックしたいと思います。

それでは日本の農業の解説に参りましょう！

問1 いきなりやっかいな問題ですね。日本は食料自給率が低いということを知っていれば、**オ**に該当することは簡単に分かります。難しいのは他の国を判断することです。まず、**食料自給率が高ければ、余剰の農産物を大量に海外に輸出できている**んじゃないかと考えましょう。なので、**ア**と**イ**の自給率上位の2か国が農産物を大規模に輸出しているアメリカかカナダのいずれかに該当します。**ア**は食料自給率の数値の変動幅が大きいことからカナダと分かります。**カナダの人口は3500万人程度しかおらず、豊作や不作の影響がアメリカよりも大きくなり、年による自給率の差が大きくなります**。残った**イ**がアメリカ合衆国に該当します。次は、**ウ**と**エ**の判断についてです。ドイツは混合農業を行うことができるので、大麦や小麦などの

作物を栽培しています。一方のイギリスでも小麦を栽培することはできますが、国土の約半分が牧場・牧草地となっているため、ドイツよりも農業が盛んにはなりません。よって、自給率の高いウがドイツで、低いエがイギリスとなります。

問2 **地産地消**とは「**地域で生産された農林水産物を地域で消費しよう**」とする取り組みです。食料自給率の向上に加え、直売所や加工の取り組みなどを通じて農林水産業の**6次産業化**につながるものとして考えられています。

長所の1つは、「**生産者**」と「**消費者**」の**結びつきが強化されること**です。消費者にとっては、「顔が見える関係」で生産状況なども確かめられ、新鮮な農林水産物を消費できます。他には、消費者ニーズに対応した生産が展開できる、自給率向上につながる、地域の食材を活用して地域の伝統的な食文化の継承につながるなどの良さもありますね。「顔が見える関係」であるが故に、産地などの偽装が行われにくく、**食の安全性を確保**することができます。海外からの輸入作物などは品質の面で不安ですよね。少し前に、中国からの賞味期限切れの鶏肉が輸入されていたことが発覚し、それを用いた商品を扱っていた企業は対応に汲々となっていたはずです。

長所の1つは、**地域の活性化につながる**ことです。生産者と観光事業者等との連携による地場農林水産物の消費の拡大、小規模な生産者への所得機会の創出、などが挙げられます。現在、農業従事者が減る一方になっていますので、この現状をいささかなりにも打開できる可能性を秘めていることは素晴らしいことだと思います。

長所の1つは、**輸送距離を短くして地球温暖化等の環境問題に貢献**できることです。作物が輸出されるためには、輸出港まではトラックで運ばれ、輸出港から輸入港へは船舶で運ばれます。この距離が長ければ長いほど、移動にかかる原油などのエネルギーの消費がかさみ、その分二酸化炭素排

出量が増加して、温暖化を促進することになります。地産地消を行えば、温暖化に対策を施すことができます。また、同じような考え方に**バーチャルウォーター**の考え方があります。作物栽培には多くの水が消費されています。なので、作物を輸入することは水資源を輸入していることと同じようなこととなります。大量の作物を輸入すれば、輸出国の水資源の枯渇を促進することになりかねません。地産地消すれば、その流通に関わる距離を短くすることで環境対策を図ることができます。

問3 **6次産業**とは、農業や水産業などの第1次産業が食品加工(第2次産業)・流通販売(第3次産業)にも業務展開している経営形態を表す、農業経済学者の今村奈良臣が提唱した造語であり、また、このような経営の多角化を6次産業化と呼びます(1次+2次+3次=6次ということ)。生産した農林水産物が消費者の手に入るまでに第2次産業者や第3次産業者の手元に渡っていた仲介料を第1次産業者が獲得することで、自立した農林水産経営を行うことを目的として始まりました。

解答を作成するに当たり、各用語をしっかりと理解しておきましょう。

「**道の駅**」(みちのえき)は、国土交通省により登録された、**休憩施設と地域振興施設が一体となった道路施設**のことです。ここでは、24時間利用可能な一定数の駐車スペース、トイレ、24時間利用可能な電話、情報提供施設を備えた施設であることが登録の条件となっています。また、多くの場合、道路や地域の情報を提供する案内人が置かれ、その他、その地域の自主的工夫のなされた施設が設置され、その地域の文化・名所・特産物などを活用した農産物直売所、売店、レストランなどのサービスが提供されています。

「**農産物直売所**」(のうさんぶつちよくばいじょ)とは、その直売所が立地する周辺の農家あるいは農業協同組合(農協、JA)などが設置した、地元の農産物を販売する施設です。

「**農家レストラン**」とは、「農家」（農業、酪農業、漁業を含む）が「自家生産したもの」、「密接に連携する農家が生産したもの、または地域で生産されたもの」を飲食店という形態で調理・提供し、かつその地域で運営される施設です。

「**農業体験**」はあまり説明の必要もなさそうですが、種まきや収穫などといった農業にまつわる作業を体験することです。「**加工品**」もあまり説明の必要はないですね。

さて、ここまでで用語を整理したので、いざ解答作成に入りたいと思います。指定用語のうち、「加工品」が第二次産業に属す以外は、すべて第三次産業に属しています。なので、「加工品」は絶対入れつつ、他の用語をうまく取り入れて解答につなげましょう。

新鮮な農産物に関しては、そのまま販売される「農産物直売店」につながられますし、料理して提供する「農家レストラン」にもつながられます。ですが、「加工品」は上記の2つの指定用語にはつなげにくいので「道の駅」で販売される方向性で書きます。「農業体験」は、生産している、もしくは加工している農産物の知名度を上げるために行われるイベントと考えましょう。私は農業体験をしたことはありませんが、「八つ橋」というお菓子を作成する「生産体験」はしたことがあります。あと、「八つ橋本店」でアルバイトをすれば、作業工程の間でいくらかでも間食していいらしいですよ！メディアに取り上げられていました。こういう情報が「八つ橋」の売り上げにも影響を与えているはずですから、「**農業体験**」も付加価値を上げる一助になっているのでしょう。

私は本当に「八つ橋」が好きで、大学時代に一つ失敗したことがあります。大学の昼休みに京大の近くのお寺に行って、ちょうど売店で売っていた「八つ橋」を昼ごはんにしてやれって思って、大量に食べたら気分が悪くなって、そのまま帰宅するということがありました。やっぱり何事もほ

どほどが一番ですね(笑)。

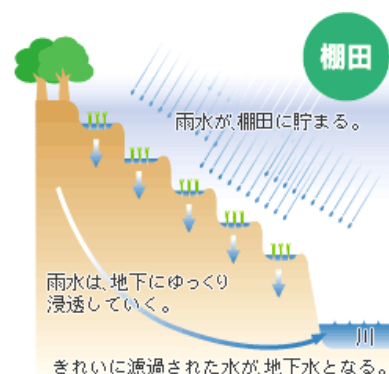


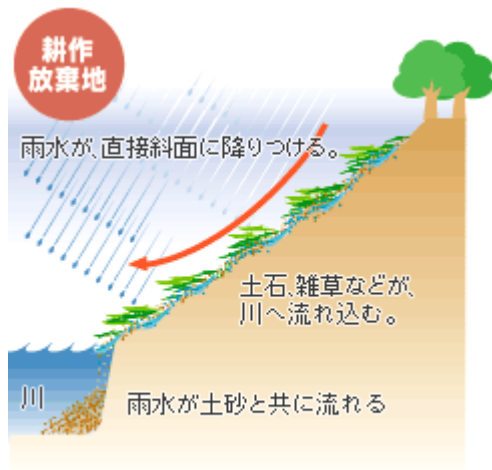
八つ橋(ニッキと餡の絶妙なハーモニー♪)

問4 **すごく王道の問題が来ました。小学校から習う稲作地帯の問題です。稲作は機械化が容易なので、広大な農地で作業をした方がコストを抑えることができます。**また、豊富な水分が成長には欠かせませんが、**山間部の雪が春先に解けて、水田地帯を潤してくれます。**成長期の初夏に供給されるので非常に好条件で生育できます。さらには、夏の気温の高さも成長には必要ですが、**特に東北地方は盆地が多く、夏の気温が高くなります。**こういった条件をまとめていけば完璧な答えが出来ると思います。

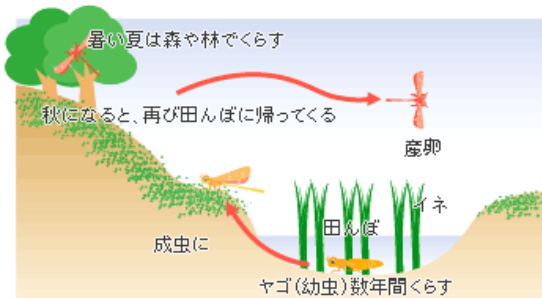
問5 **棚田の機能の基本は洪水防止・土砂流出防止・水資源かん養になります。**ちょうど「さが棚田ネットワーク」というHPに分かりやすい図が載っていたので参考にしてみてください。

(https://www.pref.saga.lg.jp/web/shigoto/_1075/_32921/_35883/_35895/_35898.html)

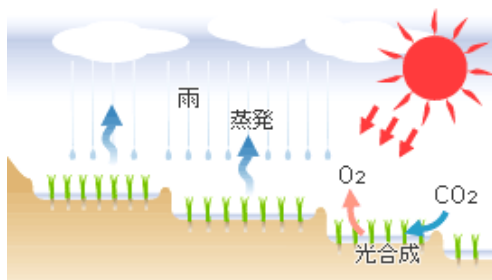




あと、**豊かな生態系が維持されます**。赤トンボの場合、卵は、水田の中に産み付けヤゴになって、数年間、水田の中で暮らします。その後、成虫になり、夏を森や山で暮らし、秋に卵を産むために穂を実らせた水田に帰ってきます。昆虫が豊富であれば、それを捕食する動物も豊富となり、それらの死骸や糞尿は土地の栄養分へと姿を変え、また稲作も行いやすくなります。



棚田には、浄化作用もあります。棚田がフィルターとなって、水の汚れを取り除き、また、太陽に照らされ蒸発した棚田の水は、気温の上昇を防ぎ、雲になって雨を降らせ、空気をきれいにします。



知れば知るほど棚田ってすごいですよね。言葉だけは有名でしょうけど、この能力に気付いている人はわずかだと思います。みなさんの心に、棚田の良さが深く刻まれることを祈ります。

さて、次回はどんなテーマになるかは分かりませんが、次回もお楽しみに！